

ところへ旅行にも行きました。フランス学士院で行われた研究会で錚々たるメンバーに混じって報告をするなど、忘れがたい思い出もたくさんあります。すべてを書き出すと、「どうりおんぶ」一冊でも收まりきらないかもしません。年が明けて、一九九九年からの毎日こそ、授業に追われることはないいろいろあるのですが、思い切ってカットして、もうそろそろまとめて入らなければなりません。

振り返ってみて、僕にとってなにより恵まれていたのは、やはりエティエンヌ君という同居人を得たことだったと思います。アメリカのサマースクールのときの同居人は、ややおせっかいな性格で、しかもお互い夏休み気分ということもあって、とにかく毎晩飲みに行こうの連続で、それはそれで語学の勉強にはなりそうなものの、さすがに辟易していたのを思い出します。彼に比べてエティエンヌ君は、漢字オタクになるほどの人ですから、根がまじめなのでしょう、遊びに行くといつても、たまたま映画に行ったり、週末友人たちと集まってバーで少し飲む程度のことです。そのうえ個人主義の徹底度に干渉してくることもなく、実際に快適な距離を保ちながら友情を深めることができたよ」と思いました。

僕に言わせれば電気通信の技術

どの語学の才能のあるエティエンヌ君は、「フランス人としては例外的に、英語、ドイツ語にも堪能で、とくに英語はほぼネイティブなみです。日本語も僕との二年あまりの共同生活で、僕の日本人の友人が驚愕するほどに上手くなりました。そういうわけで、朝から晩までフランス語を話さなければならぬ、というわけでもなく、また、フランス語のできない僕の両親や友人たちがやってきても十分エティエンヌ君と意思疎通ができる、そういう意味で非常にラクな、外人ととのアパートシェアだったのだと思います。もちろん彼は、フランス語は上手に喋れるわけですから（！）、たとえば水道が壊れて工事の人を呼んだり、家具を買ひに行つて配達の手続きをしたり、などなど、ややこしい（？）交渉はすべて彼にやつてもらひ、そういう点でもラクな外国生活です。もちろん良い面ばかりではなく、生活習慣の違いや、メンタリティーの違いから、ささいなことで口論になることもありますし、フランス語の口げんかはどうしても勝つのは難しく、それでかえつてストレスがたまる、ということもししばしばです。しかし、レポートや論文のフランス語を直してもらつたり、彼の友人を紹介してもらつたり、あるいはまた愛車を自由に使わせてもらつたり、いろいろな相談に乗つてもらつたり、やはり冷静に考へ

て、彼との共同生活では、僕のフランス生活にとつてのメリットの方が断然大きかったように思います。もうひとつ、パリに留学してつくづく良かったなと思うのは、この三年間近くの間、実際に多くの教師や友人にパリで再会できたことです。これが例えれば南アフリカに留学していたのでは、そんなに訪問客がなかつたかもしれません。ロンドンはもっと多いということですが、それでもパリには年中様々な人が様々な目的でやってきます。外国での再会というのは非常に印象に残るもので、洛星同期の竹口君や片岡君、その他の友人たち、さらに、東大の先生方も大勢来られました。みなさんパリに来ると必ず声をかけてくださり、そしてご馳走してくださいました。その一つ二つがはつきりと記憶に残っています。なかには日本にいたときよりも頻繁に会うことになつた先生とか、日本にいたときよりも友情が深まつた友人などもいます。これは留学そのもののメリットという訳では必ずしもなれないかも知れませんが、やはりパリに住んでいたかゆえに味わうことのできた貴重な経験だと思っています。

さらに洛星関係で言えば、結局これまでパリで会うことはできなかつたものの、木村先生、寺井先生、かつて受付にされた中村さんなどは折りにふれてお便りを下さいましたし、ラバティ神父様高田先生、荻野先生なども電子メ

Message

- 午前9時30分～
12時30分
午後6時～
8時30分
日祝・第4木曜・

栗山耳鼻咽喉科医院

要山 博(10期生)

〒602-8157 京都市上京区千本丸太町
一筋東一筋北
TEL. 075-841-5960

Message

- 「くるまたつ」と
読みます。手押
の台車をあつか
いでいます。

(株) 車辰

TEL. 075-841-0419
FAX. 075-841-5601

一ルを下さいます。その他にもメールでやりとりをする同期の諸君などもいてくれたおかげで、余りひどいホームシックにかかることがなく、これまでやってくることができました。インターネットの発展は、夏目漱石のロンドン留学時代には想像もできなかつたであろうような距離感覚の縮小をもたらし、日本のニュースも、家族や友人知人の動向も瞬時に伝わってきます。外出もしないで部屋に閉じこもつてしまふほど、自分がパリにいることを忘れてしまつぱりです。そういうわけで、多くの人に支えられて、僕のパリ生活は幸せなものになりました。外国で三年間も住むというのはおそらく後にも先にもこれが唯一の経験となることでしょう。その経験が、楽しかった思い出でいっぱいだと思えることがあります。研究の方はどう進んだか、これをちゃんと書かなければならぬといつて、ほんとうに恵まれたことだと思います。研究の方はどう進んでください。ただ一言、研究成果とかもはやとつくに与えられた紙幅を超えてします。またの機会にさせて下さい。ただ一言、研究成果とかもはやとつくに与えられた紙幅を超えてします。またの機会にさせて下さい。法学専攻の院生段階での留学というのはなかなかつらうものなのであつて、それよりはむしろ、まだまだ若さの残るうちに、外國で三年間も生活をしてみると、その経験そのものが、僕に様々なことを学ばせ吸収させてくれました。

れたのではないかと思っています。そしてその生活が楽しいものであったと総括できるのであれば、僕の人生にとってこれほど意義深いものはなかつたとさえ言えるのではないかという気がします。ところで、一九九九年十一月から、ホームページを開きました。そこで「個人的ニュース」と題して日々のパリ生活を綴っていますので、よろしければご覧下さい。アドレスは、
<http://perso.wanadoo.fr/minamino/top.jp.html> です。

—1000年四月記



1998年8月、シャルトルにて、エティエンヌ君、32期の片岡君とともに撮ったものです。

33期生
齊藤
陽一

洛星ファミリーの皆様、お久しうぶりです。33期生の齊藤陽一と申します。私は大学卒業後、東京海上火災保険(株)に入社、現在は会社派遣という形で、米国 Washington University, Olin